

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：SRS株式会社

定 価：一部 30円

2012年2月20日

第 346 号

つばさ静岡の今
つばさ静岡 事務長 羽山 純

つばさ静岡では、先日、運営会議を4時間に拡大して、各部門の中核である主任と管理職が合同で、研修会を実施しました。

最初に、各部門の現状の課題と、次年度の課題について報告が行われました。そこでは、各部門が担っている困難がまず報告されました。つばさ静岡というひとつの組織であっても、各部門はそれぞれに比較的独立し、独自の専門性を追及し、課題に向き合っています。そのため、それぞれの部門は、ともすると、自分たちの担う課題の困難さに眼を奪われ、他部門の置かれている状況が眼に入りにくかったり、孤立感を持ちたりします。そういう意味で、お互いを感じている「しんどさ」を傾聴しあうことには重要な意味があると思います。

同時に、それぞれの部門からの報告は、「しんどさ」の表明だけで終わることなく、そこにある課題、さらに新しい課題に向き合っているという意図の表明でもありました。

困難さの軽減と、新しい課題に向き合おうという姿勢が、来年度新たに取組もうとする二つのプロジェクトに整理されました。

ひとつは、通所、相談を軸にした在宅

支援部門の充実に向けた取り組みです。この部門はこれまで、つばさ静岡の一セクションとして、つばさ静岡の持つ医療機能をはじめとする専門機能などの大きな資源と有機的に連携できるといふ利点を持っています。しかし、入所支援と在宅支援ではニーズやその支援方法に大きな違いがあることも明らかになってきました。来年度は、制度の変更にあわせながら、通所、相談の充実に加え、訪問という形での支援についても一歩踏み出すことを課題とします。

二つ目のプロジェクトは入所部門に関するものです。開設後6年を過ぎました。入所者の平均年齢も30歳になりました。6年の歳月は、彼らとともにさまざまな経験をする時間となりましたが、身体機能に困難を持っている重症心身障害のある人たちにとっては、機能障害を確実に進行させる時間でもありました。そのため、生活支援と医療とがいつそう密接に、一体のものとして提供できる体制が求められています。医療ゾーンと生活ゾーンという風に分けてきたこれまでの入所部門のあり方の根本的な見直しを含めた検討に入る必要があるという判断を共有しました。

その後の、出席者全員の3分間スピーチでは、浅野事務部長の、「自慢話でよいから、一年のそれぞれの成果を報告しあおう」という呼びかけで、個人

あるいはチームが取り組んできたこと、その成果が報告されました。何よりも、発表者自身が、自身のこの一年のがんばり（それは新しい課題の発見でもある）を再確認できたのではないかと思います。

最後に山倉施設長から、自分たちのやってきたこと、やっていることを過大評価するのではなく、卑下するのではなく、正しく評価し、これから起きてくるであろう、今まで以上の困難にも、自信と勇気と明るさを持って取り組んでいこう、という趣旨のまとめがありました。

障がい者への支援が、自立と選択というキーワードで語られます。それはもちろん、望ましい変化であるとして、しかし、最も重い障害のある人への支援を、無理にその理念に当てはめることで、この人たちの現実が置き去りにされるのではないか、という危惧が私にはあります。「一人で自由に決めること」が、「お互いを思いあってみんなど決める」ことよりも常に良いことであると言える人は少ないと思います。重症児者を支えるためには、「援助が必要なら提供します」というだけではなく、「私たちがあなたを支えたいのだ」という積極的な意思が必要だと思っています。「私たちは皆その想いをもっている」と感じることができる時間になりました。

毎日が

いきいきと！

小羊デイケアホームの実践

小羊デイケアホームのあゆみ

小羊デイケアホームは昭和63年に重度障がい者の通所施設として小羊学園青年寮ワークショップを使用して北区三方原町で開始しました。この事業の必要性を静岡県も認めてくださり、翌年からは県単独事業の生活訓練ホームの認可を受けました。

平成6年には現在の場所である、北区根洗町に拠点を移しました。障がいの重い人たちが通所できる施設は当時限られていましたので、中には遠州浜から毎日通われる利用者もおられ、片道の送迎が2時間近く掛かっていました。平成17年南区でマルカートが始まる際に南区の方が移籍され、現在は北区や中区からご利用の方が多いです。現在は自立支援法に基づく生活介護事業所として運営しています。

一人ひとりが主人公

小羊デイケアホームは前述の通り根洗町にあります。来客者に説明する時には聖隷クリストファー高校の隣(西側)だと説明しますと立地をご理解い

ただけです。利用者定員数は20名ですが地域からのニーズが高く現在の利用契約数は22名で一日に21名の利用者がこちらに通ってこられています。利用者像は障害程度区分を平均すると丁度区分5になるくらいで重知的障がいをもった方々が利用されている状況で平均年齢は29才です。日中活動支援にあたるスタッフは施設長を含め8名の職員体制であり、デイケアホームの日課は左記別表の通りです。殆どの利用者がこちらの送迎車を利用されており朝夕、3台の車で中区方面、西区方面、浜北区、東区方面への送迎サービスを行っています。

利用者の活動内容はクッキー作り、畑作業、クラフト、ミシン、散歩などを主に行っています。午前に1活動、

< 日 課 >

8:30~9:45	送迎・通所・荷物片付け
10:00~11:30	朝の会・午前の活動
11:30~12:00	手洗い、配膳
12:00~13:00	昼食
13:00~14:00	昼休み、活動準備
14:00~15:00	お昼の会・午後の活動
15:00~15:30	片付け、おやつ・荷物準備
15:30~15:45	帰りの会
15:45~	送迎・帰宅



小羊デイケアホームの外観

午後1活動を設定し、利用者の障害程度に合わせた、ゆったりとした活動

を設定です。前日の帰りの会に翌日の日課を発表し、利用者が自分の希望を伝えグループを決定していきます。しかし希望を伝えられない利用者も多くその方達への配慮も怠ってはなりません。現在は、家族の希望を受け止めつつ、本人の理解に合わせた希望選択の必要性を再確認し幾つかの取り組みを行っている段階です。

デイケアホームは利用者一人ひとりが主人公になれるよう前述した活動設定を行っています。その中で最も大切にしてほしいのは利用者個々の理解を深める事です。利用者の得意、不得意を知り、知的障がいから来る理解度、経験から獲得した能力を分析し個人を見つめます。そして本人に丁度良く、楽

しく、認められる場面を設定し、利用者に無理のない課題を設定します。その設定は日中活動に反映し支援され、利用者のワクワク感に繋げてゆけるよう努めています。元気に楽しく、毎日をいきいきと通えるデイケアホームであるためにスタッフ会議では活発な議論がなされています。

やりがいや達成感を目指して

クッキー作り

クッキー作りは25年前の調理設備が何もなかった頃から職員が利用者とう活動設定として期待を胸に試行錯誤しながら始めた活動のひとつです。

利用者の携わる活動の工程は材料の買い物から始まり、材料分け、生地作り、焼き、ラッピングと一連の工程を経て販売に至ります。それぞれの工程に利用者の携わる得意分野があり、例えば生地づくりでは粉振るい、混ぜ、ミキサー、練りの工程があり介助や見守りが必要ながらも今までに獲得した動作をクッキー作りに生かしています。出来上がったクッキーはそれほどの数にはなりません。それは活動での利用者の工程参加を重視しているからで時々大口の注文希望がありますが事情を説明して、お断りしている状況です。以前から手作りにこだわったデイケアホームのクッキーやパウンドケーキは大変好評を頂いており、現在の地域に向けた販売は聖隷三方原病院内での販

売のみとなっております。

聖隷病院での販売は利用者と職員で行います。午前2時間のみの販売です。ロビーの一角をお借りしてテーブルに商品を並べる事から呼び込みや商品やお金の受け渡しを可能な限り利用者が行います。お客様から励ましの言葉やをいただく事もあり、ささやかですが社会や地域を感じられる場面であります。

ただ一連の工程を経てクッキーが完成し販売を行うまでに一週間近くかかるために利用者の立場になってみると活動中に行われている工程が直、クッキーの香り、味といった五感に働きかけるにはいならず、利用者によってはクッキーとの結びつきが活動時に得られていない可能性もあります。支援者としてどんな活動設定であっても利用者の視点で有り続けなければならぬと感じると同時に個別的な活動設定の難しさも感じます。



生地作りをハンドミキサーで行います

畑作業

畑はデイケアホームから東に歩いて10分ほどの所にあり、開設時から長い間地主さんの厚意でお借りしています。70坪程の広さに季節毎の野菜を育て収穫の喜びを感じさせてくれます。利用者との作業は苗の植え付けから草取り、堆肥運び、水やり、収穫と多岐にわたります。これらの活動も出来るだけ利用者が携われる場面を多く持てるように取り組んでいます。どんな季節でもその時の風に吹かれ、利用者と堆肥を運んだり草を取ったりするのは気分が良いもので、お互いの表情も清々しく感じます。毎日畑に手を加えてゆく事で結果として収穫物を得られ、収穫の時の喜びは格別です。利用者も職員も無条件に喜ぶ姿に一体感が生まれるのを感じます。時には鳥にスイカを食べられたり、台風で苗が倒れたりとかっかりする事もあります。だからこそ収穫の喜びが増しますし、畑を通して色々な場面や思いを利用者と共有出来る強い達成感を得られるのだと思います。大切に育てた収穫物は職員の手によって毎日の昼食時に提供される味噌汁の具や漬物になります。季節ごとに変わる味噌汁の味には利用者、職員の汗と苦勞が染み込んでいて、共に行った畑作業を思い出しながら味噌汁をすすると特別な気持ちになります。季節や充足を感じられる畑はクッキーづくりと同様にデイケアホームには欠かせない

活動のひとつです。

役割と今後の課題

デイケアホームの役割として利用者個々の日常生活の支援と生活リズムの安定・生きがいを感じられる活動プログラムの設定・積極的な地域交流と活動展開・困った時のご家族との相談と他事業所とのサービスマニエール等が挙げられます。今後も重い知的障がいを持つた方の日中活動場所を保障し、利用者が活動設定の中で能動的になれる、そして認められる喜びが結果として豊かな人間関係の構築に繋がりを、いきいきと暮らせる。そんな小羊デイケアホームであり続けたいと思っています。

しかし、大きな課題として利用希望のニードに答えられなくなっている現状があります。現在は最高1日21名の利用者が利用されます。職員を合わせると29名となり手狭感が否めません。デイケアホームが大切にしてきた前述した利用者支援を守るためには、これ以上の利用者を物理的に受けられなくなっているのです。利用希望の多くは特別支援学校卒業後の進路選択のひとつとしてお考えになられるケースです。

「デイケアホームの活動設定が我が子にむいているから是非」との希望をいただきますが、残念ながら受け入れをお断りしている状態であることを報告させていただきます。

現在のデイケアホームは敷地も狭く、

土地も聖隷事業団からお借りしているため、利用者増員のために増築することは出来ません。利用ニードに対応するためには移転の手段を取らなければならず、法人内で現在検討中ではありますが具体的な結論には至っていません。目の前に困っている人がいるのに手を差し伸べてあげられない現実是小羊デイケアホームだけの問題ではなく他の生活介護事業所が同様に抱えている課題でもあります。地域にはまだ通う場所のない知的障がい者が暮らし、特別支援学校高等部の卒業生は毎年送り出されます。今、法人として今後の受け皿の在り方を示さなければなりません。必要とされている人達に安心して将来を展望できる福祉社会を想像して。



毎日が笑顔であることを願って

創立感謝祭&講演会のお知らせ

4月28日第46回小羊学園創立感謝祭で公開講演会を行います。小羊学園創立の精神を語り継ぐ大切さを学ぶ機会として、故山浦俊治理事長の学友であり親友であり、聖隷福祉事業団元理事長の長谷川力氏に「山浦俊治と小羊学園」と題しご講演を頂く予定です。講演後には、「小羊学園における『障がい児福祉』のあゆみ」と題したシンポジウムを行います。講演会の日程等詳しくは、次号でご案内いたします。



われを愛す」のハンドベル演奏を披露され、交わりの時間を与えられました。

子どもたちとともに祈り
2月18日、三方原スクエアの教会学校に遠州教会教会学校の子どもたちと教師が見えられ、礼拝を一緒に行いました。その後、大月先生による歌の会にもご参加いただき、「主

施設の種別が変更になります

平成24年4月施行の児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、法人内では左記事業の事業種別の変更が予定されています。まだ不透明な部分もありますが、法律の改正や経過措置の動向を踏まえて、支援の充実を図れるよう努めます。

【児童福祉法関係法令】

■ 三方原スクエア児童部

知的障害児施設

← 障害児入所施設（福祉型）

■ つばさ静岡

重症心身障害児施設（18歳未満）

← 障害児入所施設（医療型）

■ はびるす

児童デイサービス（Ⅰ型）

← 児童発達支援事業（福祉型）

【障害者自立支援法関係法令】

■ つばさ静岡

重症心身障害児施設（18歳以上）

← 障害者支援施設（療養介護）

■ アグネス、アグネスみなみ、アグネス静岡

委託相談支援事業所

← 指定相談支援事業所（障害児相談支援・一般相談支援・特定相談支援）

■ わかな

日中一時支援事業

← 放課後等デイサービス

■ わたぐも幼児部

重症心身障害児者通園事業（A型）

← 児童発達支援事業（福祉型）

■ ドルチェ

児童デイサービス（Ⅱ型）

← 放課後等デイサービス

■ わたぐも

重症心身障害児者通園事業（A型）

← 生活介護

小羊学園を支える会

2011年度寄付金報告

1月受付分	363,728円 (36件)
累計	6,426,136円 (386件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局（鈴木）
 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

2月13日に浜松インクルージョン研究会主催の浜松フォーラムに参加させて頂いた。西宮市社会福祉協議会の清水氏から西宮の地域づくりの実践をご講演頂いた後、浜松での暮らしのあり方についてシンポジウムがあった。その中で、地域（まち）を創っていくには、行政や市民との協働が重要なんだという言葉に会場が一体化した。稲松理事長が予てから言葉に発する、市民力を高めていくことを、微力ながら実践していきたいと決意できる良い機会を与えられた。

今年の冬將軍は日本がお好きなように居残っています。まだまだ寒い日が続きます。どうぞお身体ご自愛下さい。(F)